

経カテーテル大動脈弁植え込み術後の左室拡張能の変化に関する研究に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：平成 29 年 8 月 2 日～平成 32 年 3 月 31 日

〔研究課題〕

経カテーテル大動脈弁植え込み術後の左室拡張能の変化に関する研究

〔研究目的〕

大動脈弁狭窄症(AS)の中には基礎疾患、重症度、脆弱性(frailty)により手術困難な方が約 30%います。経カテーテル大動脈弁植え込み術(TAVI)は低侵襲・短時間でありこれらの症例にも施行できるようになりました。AS 患者様では大動脈弁を正常化することで収縮能などの心機能回復が期待できます。左室拡張能に関しても良くなるのが期待されますが TAVI 前後の左室拡張能変化を詳細に調べた報告は少ないです。

本研究では、TAVI 適応の重症 AS 症例における術前・術後の左室収縮能・拡張能の変化、それに伴う予後の変化に関し調査します。

〔研究意義〕

近年高齢者手術が増加し心臓血管手術でも例外ではありません。AS 患者様の中には年齢、基礎疾患により従来の外科的大動脈弁置換術の適応外となる方がいます。そのような方にも TAVI をおこなうことで予後が改善することがわかってきました。術前左室拡張能が悪い患者様では従来の手術では予後が悪いことがわかっています。TAVI の予後においても術前左室拡張能が悪さをするのか、また術後拡張能が改善するのかを調べることで TAVI の有用性を証明し患者様の予後改善に寄与したいと考えます。

〔対象・研究方法〕

対象は AS で TAVI を行う方です。術前、術後～退院まで、退院後から6カ月～1年程度の心エコー所見、臨床所見を参考に左室収縮能、拡張能を評価し予後を調査します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院

〔個人情報の取り扱い〕

対象者の生命、健康、プライバシー及び尊厳を守るように努めます。本研究の結果を公表する場合は被験者を特定できないような配慮します。得られた情報の保存を含む扱いには十分注意し、データの喪失やウェブ上への情報の漏洩などがないように配慮します。個人情報を保護するため、個人情報管理者が被験者ごとに番号を付けて、データ等の取扱い時にはこの番号を用い、氏名等は使用しません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 澤村 成史(帝京大学医学部 麻酔科学講座・主任教授)

研究分担者: 華山 悟(帝京大学医学部 麻酔科学講座・助教)

荒武 俊伍(帝京大学医学部 麻酔科学講座・助手)

安楽 和樹(帝京大学医学部 麻酔科学講座・助教)

柿沼 玲史(帝京大学医学部 麻酔科学講座・講師)

渡邊 雄介(帝京大学医学部 心臓血管外科学講座・助教)

上妻 謙(帝京大学医学部 内科学講座・教授)

住所: 〒173-8606 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表) [内線 7104 華山 悟]